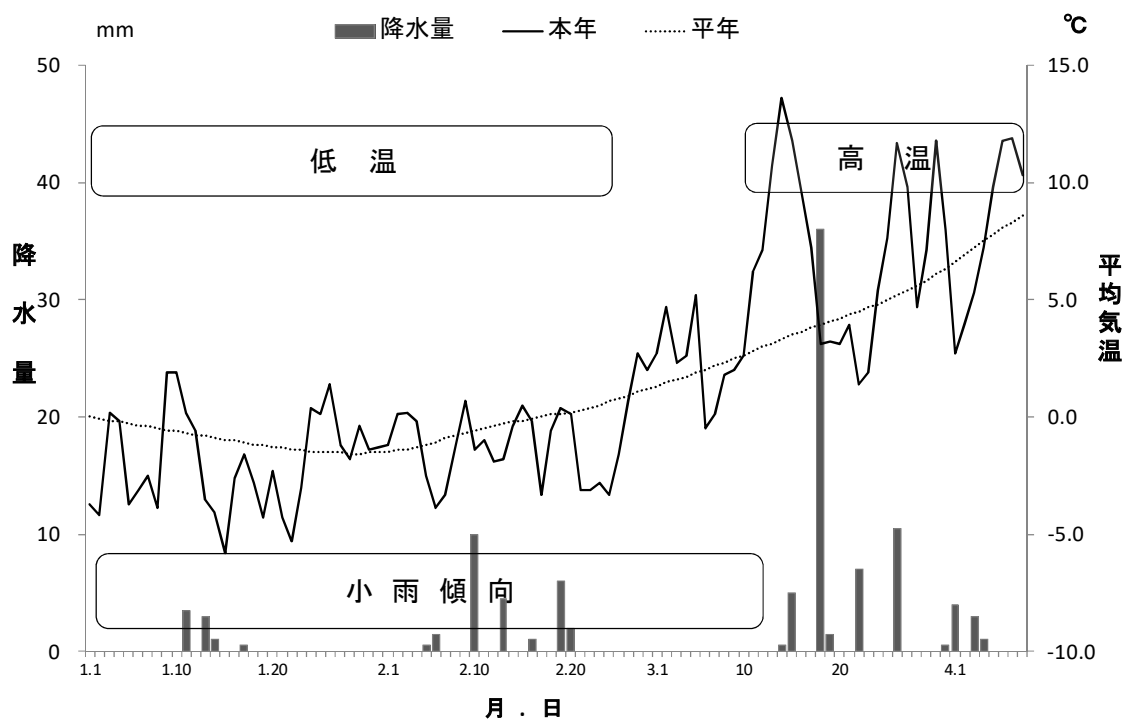


令和4年 作物技術普及情報 第4号

(麦の生育状況、2回目の追肥、水稻育苗管理について)

令和4年 気象経過(穂高アメダス 1月1日~4月8日)



1 気象状況

2月末までは低温・小雨傾向で推移していましたが、3月中旬以降は高温傾向で推移しています。今後も高温傾向が予想されています。

2 麦の生育状況と2回目（止葉展開期）の追肥について

（1）麦の生育状況

湿害等の障害を受けてない場合は、以下の生育状況と推定されます。
2月までの低温による凍み上がりで、凍上害が目立つ圃場があります（標高の高い圃場や播種遅れの圃場等）

10月下旬 播種 → 生育量は「やや過剰」
11月上旬 播種 → 生育量は「並」
11月中旬 播種 → 生育量は「並～やや少」
11月下旬 播種 → 生育量は「やや少～少」

4月3～5日調査では、生育良好な圃場の生育ステージは以下のとおりです

大麦 幼穂長 約10mm 止葉の1枚下が抽出中
小麦 幼穂長 約1～2mm

2月までの低温の影響で、大麦・小麦ともに平年より3日程度遅れていると思われませんが、今後は高温傾向が予想されているため、生育の遅れは徐々に解消されると思われます。

このため、大麦は4月末頃から、小麦は5月連休頃から出穂期を迎えると予想しています。

うどんこ病の発生は少ない模様ですが、過繁茂な圃場や、ゆめきらりを作付けしている圃場では、今後の発生状況にご注意ください。

（2）2回目の追肥時期

★ 一施肥二鳥や麦追肥1発肥料を施用した圃場では、2回目の追肥は不要です★

○ 大麦及び小麦（ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ）は止葉展開期を確認して適期追肥をお願いします。

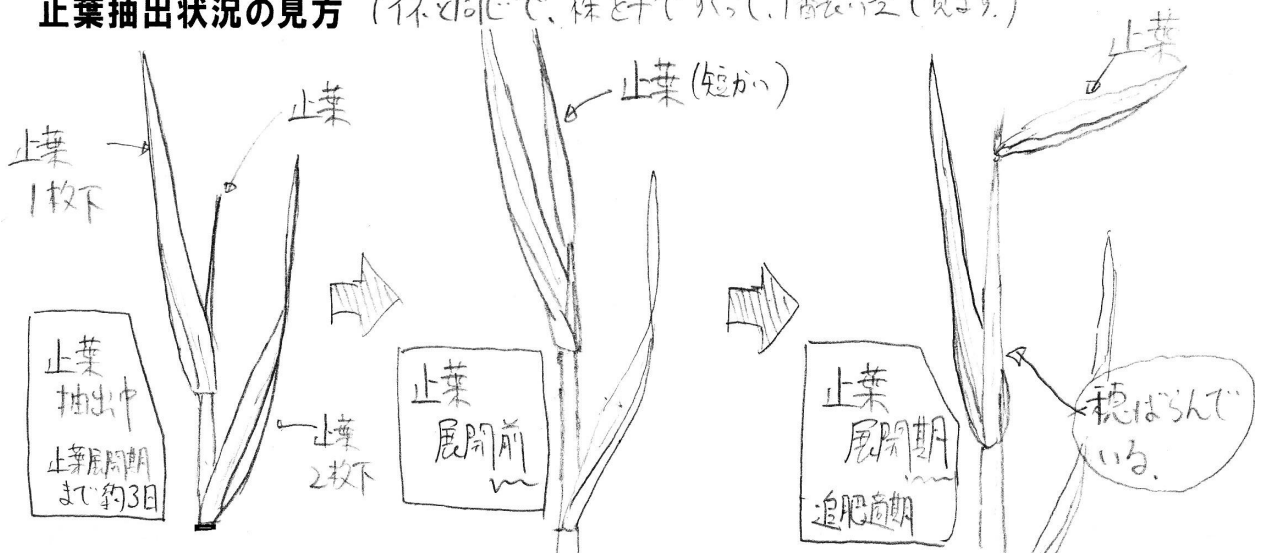
今後の気象状況にもよりますが、大麦は4月20日頃、小麦（ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ）は4月末頃に止葉展開期を迎えると思われます。

- パン用小麦（ゆめかおり）は出穂状況を確認し、出穂期～穂揃い期（5月連休明けと思われます）に追肥をお願いします。
- 暖かい日が続くと、思ったより生育が進む場合があるので、今後の気象状況に注意してください

【注意】

- ★ 極端な早期追肥は倒伏を招きます。
- ★ 大麦の場合、適期を逃すと硬質麦（硝子率が増加）となり、品質ランクを落とします。
- ★ 小麦の場合、適期を逃したり、無追肥だと低タンパクになり、品質ランクを落とします。
- ★ 適期に散布しても、土壌が乾燥していると効きませんので、降雨が期待できない場合、灌水とセットで実施してください。

止葉抽出状況の見方 (イネと同じで、株を手でずらして、一番長い茎で見ます)



(3) 2回目の追肥量

播種時期によって生育差があります。圃場の生育状況に合わせた追肥量をお願いします。

追肥量の基準

★大麦及び小麦（ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ）

窒素成分で2kg前後／10a（硫安の場合10kg前後／10a）

★パン用小麦（ゆめかおり）

窒素成分で4kg前後／10a（硫安の場合20kg前後／10a）

★以下は大麦・小麦（ゆめきらり、シラネコムギ、しゅんよう、ユメセイキ）の場合

生育が悪い圃場（播種遅れ、湿害、凍上害等による）

- 少なめ追肥 窒素成分で 1 kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 大麦：硬質粒の発生、小麦：高タンパク化、粉色や・製麺性の低下

生育が良い圃場

- 基準の追肥 窒素成分で 2 kg/10a ⇒ 茎数が確保されている場合は、基準量を追肥して登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ 充実不足による小粒化、低収、タンパク質量の低下

生育が過剰（過繁茂な圃場）

- 少な目追肥 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で 1 kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ 充実不足による小粒化、低収、タンパク質量低下

2 水稻の育苗管理

これから播種最盛期を迎えますが、寒暖の差が激しいと、ムレ苗や苗立枯病等が発生します。天気予報に十分注意し、適温管理の徹底をお願いします。

特に霜注意報が出た朝は晴天になることが多く、急激にハウスやトンネル内が高温になるので、換気を早めに行うようご指導ください。

平置き無加温出芽で、太陽シートを使用している場合、曇雨天等で低温傾向が続く場合は、晴天になった時に一旦被覆を開き、育苗箱の地温を上げてから再度被覆して、出芽を促してください。

また、ハウスのビニールや保温資材を新品にした場合や、ハイマットやラブシートをべたがけしている場合は、晴天日の温度管理には細心の注意を払い、出芽後は速やかに除去するようお願いします。除去のタイミングが遅い場合がありますので、ご注意ください。

主な病害の病徴と原因

病 徴	病 害 名	原 因
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出芽中、出芽後に茶色く腐敗 ・ 2葉期以降に発病→<u>引っ張ると葉が抜ける</u> ・ <u>2葉目が1葉目の葉鞘を突き破って出る</u>、その葉身の基部が白い ・ 全面枯れ(初期)～坪枯れ症状 	もみ枯細菌病	催芽、出芽時の高温 緑化期の高温、過湿 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶色くしおれる ・ 葉身の基部が白い ・ 根の生育が悪い ・ 坪枯れ症状 	苗立枯細菌病	催芽、出芽時の高温 緑化期の高温 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗が曲がっている ・ 葉鞘から葉身に褐色の条斑 ・ 苗箱の中で均一的に出る 	褐条病	催芽、出芽時の高温 ほか
立ち枯れ症状		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地際に白カビ、種籾の周りに淡紅色のカビ 	フザリウムによる 苗立枯病	育苗初期の低温 立枯防除の不徹底 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 急激にしおれて、枯死 ・ カビがない ・ 症状が拡がっている 	ピシウムによる 苗立枯病	緑化期以降の低温 立枯防除の不徹底 ほか
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化開始時に箱全体が白いカビに覆われ、やがて灰白色となる。籾のまわりに白いカビがはびこり、苗の生育は悪く黄緑色に退色する。 	リゾープスによる 苗立枯病	緑化始期の高温多湿
<ul style="list-style-type: none"> ・ 急激にしおれて、枯死 ・ カビがない ・ 症状が拡がらない 	ムレ苗	特に 1.5 葉期以降の低温 (生理障害で抵抗力の低下)
他にも育苗中の病害はあるが、よく見られるものは上記のものです。		